



JSQC ニュース

No.242

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03(5378)1506 FAX.03(5378)1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス ANQの発足に寄せて
- 2-私の提言「確かなものづくりへの提言～ばらつき再考～」
- 2-ルポルタージュ 第84回講演会ルポ
- 3-研究会だより / 新規研究会メンバー募集 / 1月入会者紹介
- 4-ポストク募集 / 行事案内

ANQの発足に寄せて

ANQ会長 狩野 紀昭

飯塚悦功国際委員長のメッセージ(「品質」Vol.32, No.4参照)ならびに拙著の退任挨拶(「品質」Vol.33, No.1参照)で紹介されているように、アジア品質管理シンポジウム(AQS)は2002年11月に東京で、前年までの韓国、台湾、日本の三学会に中国が加わった4学会の共催となり、更に、インド、イラン、タイ、ベトナム、香港が加わり、合計10ヶ国からの品質管理組織が参加して開催された。また、これを契機としてアジアの品質管理組織の連合として、Asian Network for Quality(ANQ)が、JSQCを初代議長組織に、韓国、台湾、中国、インドを理事組織として発足した。これまでに決まった概略は次の通りである。

1. アジアにおける品質ならびに品質管理の分野における科学技術の発展ならびにフィロソフィー、理論、方法論、応用の研究開発のための推進活動を通して産業界の発展に寄与し人間生活の質を向上することを目的とする。
2. ANQでいうアジアとは、アジア大会の領域と同じとする。
3. 加盟組織の条件は、非営利の法人格をもった品質管理組織であること。
4. 運営指針としてANQ Wayを制

定し実践していく。

5. AQSを重要な活動として継続し開催するとともに、ホームページ<http://www.ANforQ.net>の充実により情報交換に役立てる。
6. 財政的には、原則として理事組織は一般加盟組織の2倍以上の年会費を負担する。また、加盟組織間の経済格差の存在を考慮して、ANQ Moneyの創設を検討していく。例えば、一人の若手専門家の受け入れを実施した場合に、物価の高いところも低いところも同じ額の貢献をしたというような換算方式の導入を考える。

今回のANQ発足に際して、もっともデリケートな問題は、一ヶ国から一組織の加盟に限定するということを明記するかどうかであった。中国と台湾の両方の加盟によって成り立っているANQにとっては、この点は、どうしても曖昧にしておかざるを得ない問題であった。結局、新たな組織の加盟の条件を、既存加盟組織全ての同意が必要とすることにより、実質的に限定することで、この議論への深



入りを回避した。この問題は、これからのANQの運営において常に問題になることであろう。

ANQ発足のJSQCにとっての当面の最大のメリットは、日本がもっとも世界に遅れを取っている国際的コミュニケーション力の向上に役立てることであろう。ANQ加盟組織が開催する大会での発表を行う、また、JSQCの研究発表会にもANQの加盟組織メンバーが発表するということへの道が開かれるであろう。このような機会を若い会員の人たちが大いに利用して、国際的な場でのコミュニケーション力を磨いて欲しい。



今後のAQSの開催地は次の通りである。

2003：中国、2004：インド
 2005：台北、2006：イラン

また、本年のAQSは、次のように開催される。多くの方の参加を期待したい。

開催日：2003年9月23-24日

開催地：Beijing Jiuhua Country
 Villa, Beijing, China

発表申込締切：2003年6月15日

参加費：USD150

私の提言

“ 確かなものづくりへの提言～ばらつき再考～ ”

大阪電気通信大学 総合情報学部・情報工学科 教授 猪原 正守



近年、品質に関連する話題がマスコミによって連日のごとく報じられている。その主要因が経営トップによる品質への関心の軽薄化にあることは明らかであるが、真因は組織の全階層における“ばらつきへの洞察力不足”と“QC活動における人間性尊重の軽視”にあると考える。特に、前者は、経営トップから現場第一線のそれぞれにおける“正常と異常を見極める仕組み”の無機能化をもたらす危険性があるので深刻である。

企業間競争の国際化によって、高い品質と信頼性を有する低コストの製品やサービスを継続的に開発することが要請される。そのとき、設計・開発～生産技術の各部門におけるばらつきへの認識不足が、DRにおける問題の早期発見と解決、現生産工程の工程能力への対応あるいはQC工程表における不具合未然・流出防止の機能を弱くしている。

QCにおいては、特性のばらつき要因を特性要因図などによって分析することを基本としてきたが、例えば、錆びによる設備寿命のばらつき要因を“使用している水”とする例に接すると悲しくなってしまう。特性要因図の正しく活用には、ばらつきに対する深

い洞察こそが必要ではなからうか。

一方、小集団活動を初めとして“企業業績への貢献”が叫ばれる中、改善テーマの上位方針や企業業績との関連あるいは問題解決のスピード化が重視され、問題を解決すること（特殊解を見つけること）が重視される一方で、問題を発生させているばらつき要因を明らかにする感性の向上が注視されない。その結果、特性要因図による“なぜ、なぜ”は軽視され、3現（現場、現物、現実）の考え方は軽視される。

人は“なぜ？”を自問する中から問題を発見し、ばらつきに対する洞察を経てその答え（一般解）を求めことで達成感を味わい、感動を得て成長するものである。ばらつきに着目し、ばらつきに答えを求める人の育成こそが人間性を尊重した品質に基づく確かなものづくり原点ではなからうか。品質管理における“ばらつき”の重要性を再考したいものである。

第84回
講演会ルポ「情報システムの品質と
その信頼性について」

第84回講演会は『情報システムの品質とその信頼性について』というテーマで10月4日午後、日本科学技術連盟東高円寺ビル地下1階講堂において実施された。

初めに事業委員長・長田洋山梨大学教授により開会の挨拶があり、続いて以下のプログラムに沿って講演が行われた。

【講演1】「情報システムの品質とその信頼性について」

- 金融機関のシステム障害はなぜ起きたか

谷島宣之 日経BP社・編集委員

【講演2】「大規模アプリケーションシステムにおける
商品劣化の要因」

関口益照 東京情報大学・教授

【講演3】「ソフトウェアの品質管理とシステム監査」

菊池豊彦 東京情報大学・教授

昨年起きた銀行システムの不祥事に見られるように、わが国の基幹情報システムを構成するソフトウェアの信頼性や品質保証について疑問を抱かせるような出来事が多くなっているため、品質管理の立場からこのような問題に焦点を当てて、その原因分析、再発防止策など本質に迫った講演会であり、多くの方々に関心をもっていただいた。当日の参加者は84名で、最後まで熱心に聴講されていた。

岡本眞一（東京情報大学）

研究会
だより

テクノメトリックス研究会

“品質管理に役立つ多変量解析法の開発・普及”を志向した 新たな視点からのアプローチ

当研究会は、1994年にSQCを研究テーマとする計画研究会として発足し、現在3期目（3年/期）をむかえている。タイトルにあるように、“品質管理に役立つ多変量解析法の開発と普及を志向した新たな視点からのアプローチ”が研究会の基本テーマである。ただし、多変量解析以外のSQC手法を対象外としている訳ではない。キーワードは“品質管理に役立つ”である。ここに“新たな視点からのアプローチ”の意味が込められている。

統計解析ソフトの普及、および各方面でのセミナー教育によって、多変量解析がSQCのベーシックな手法となりつつある。しかし、現在のレベルが品質管理に対応した独自性をもつソリューションテクノロジーとして確立したのものになっているとは言い難い。既製品では十分な対応ができない場合もある。

当面、“因果推論の品質管理への応用”“主変数法など結果系変数の選択問題”に関する研究が具体的なメインテーマである。研究発表会、学会誌“品質”への論文投稿、解説の寄稿などを通じて、これらの研究成果の公開を進めていく予定である。

第69回研究発表会のチュートリアル講演会では、重回帰分析における偏回帰係数の解釈、説明変数の選択について、工程解析、工程改善を意識した因果分析の観点からの解説を行った。また、“重回帰分析における偏回帰係数の解釈について”が品質誌32巻3号に掲載されている。

テクノメトリックス研究会主査 仁科 健（名古屋工業大学）

2003年1月の入会者紹介

2003年1月資格審査において、下記のとおり正会員18名準会員1名賛助会員1社1口の入会が承認されました。

(正会員18名) 杉野 敏也(セゾン情報システムズ) 山下 登喜雄(ポラ化成工業) 林 美津代(享栄工業) 中田 一郎・中村 忠良(ISOステーション) 名畑 誠治(日本ジョセフィン社) 工藤 久(元・東芝) 根岸 牛司(ミツバ) 中島 正(富士ゼロックス) 太田 多禾夫(エイエスアール) 宮内 正視(宮内品質経営研究所) 半田 隆(コニカ) 杉岡 龍夫(メルク) 鈴木 真一(オリンパス光学工業) 下條 佑一(日本電気通信システム) 宮内 隆(日本伸管) 高橋 良明(NOK) 近藤 明人(東海大学)

(準会員1名)
横田 英治(東京理科大学)

(賛助会員1社1口)
日本電気通信システム(下條 佑一)

正会員：3164名
準会員：134名
賛助会員：188社214口
公共会員：22口

新規研究会 メンバー募集のご案内

新規研究会の設置が決まりましたので、メンバー(会員)を募集いたします。

「次世代型小集団活動実践研究会」へのお誘い

この度、次世代型小集団活動実践研究会をスタートする運びとなりました。これからの時代に即した小集団活動の在り方を追究していく研究会です。世間では、プロジェクト・チーム、タスク・チーム、ワーキング・グループ等、様々な形で小集団活動が行われております。現在、そして、これからの時代に即した小集団活動とは何か、またどのように進めるべきかを改めて考えたいと思います。活動は月1回、1年間の予定です。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

主 査：永井 一志 玉川大学 経営学部

開 催 日：第1回研究会

平成15年4月7日(月)18:00~20:00

申し込み方法：本部事務局宛に会員番号・氏名・所属・連絡先を明記のうえ、e-mail(office@jsqc.org)またはFAX(03-5378-1507)にてお申し込みください。

定 員：20名

オランダ エラスムス大学 ポスドク募集

下記のとおりオランダ、ロッテルダムのエラスムス大学でポスドクを2名募集しています。

URL <http://www.eur.nl/eur-uk/eur/index.html>

分野は (1) Management Consultancy/Organisational Change/Service Excellence

(2) Quality Management/Organisational Performance Improvement

約20%の時間は英語による教育(修士課程)に当てることが要請されています。

詳細/応募問い合わせ先: 近藤 良夫<yoshiok@mbox.media.kyoto-u.ac.jp>

行事案内

第287回事業所見学会(本部)
 テーマ: パイオニアにおける顧客満足度向上活動に学ぶ
 見学先: パイオニア(株)川越事業所
 日時: 2003年3月5日(水)
 13:20 ~ 16:30
 定員: 40名(先着順・会員優先)
 参加費: 会員2,500円 準会員1,500円
 非会員3,500円 学生一般2,000円
 申込方法: 会員種類・氏名・勤務先・連絡先住所・TEL・FAXをご記入の上、本部事務局宛にFAXまたはE-mailにてお申込みください。

第282回事業所見学会(関西)
 テーマ: 顧客視点での品質管理への取り組みについて
 見学先: ノーリツ(株)明石本社工場
 日時: 2003年3月20日(木) 13:30 ~ 16:20
 定員: 40名
 参加費: 会員2,500円 準会員1,500円
 非会員3,500円 学生一般2,000円
 JR西明石~工場まで往復市営バスをチャーター予定。実費(1000円程度)のご負担願います。
 申込方法: 会員番号・氏名・勤務先・(所属・役職)・年齢を記入の上、E-mail:a-kobayashi@juse.or.jp宛、お申込みください。

第34回クオリティバブ(本部)
 テーマ: 零戦の遺産 - "Made in Japan" の概念を変えた名機 -
 ゲスト: 宮津 隆氏
 (当学会名誉会員・帝京科学大学名誉教授)
 日時: 2003年3月17日(月) 18:00 ~ 20:00
 場所: (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル5階研修室
 参加費: 会員3,000円 非会員4,000円
 準会員・学生一般2,000円(含軽食)
 詳細はホームページをご覧ください。

第90回シンポジウム(本部)
 テーマ: 産学連携の最前線
 “翔け 大学発ベンチャー”
 日時: 2003年4月10日(木) 9:25 ~ 17:00

場所: (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル 2階講堂
 プログラム:
 講演(1)今後の産学連携施策のあり方
 橋本 正洋氏(経済産業省)
 講演(2)創造力の創生
 川島 隆太氏(東北大学)
 事例(1)下田 隆二氏(東京工業大学)
 事例(2)長沢 伸也氏(立命館大学)
 事例(3)竹川 直秀氏(NTTコムウェア)
 事例(4)依頼中
 パネル討論会
 募集人数: 150名
 参加費: 会員5,000円(締切後5,500円)
 準会員2,500円
 非会員7,000円(締切後7,500円)
 学生一般3,500円
 申込方法: 同封の開催案内をご参照ください。ホームページから申込みできます。

第289回事業所見学会(本部)
 テーマ: サンデンにおける21世紀型モノづくりに学ぶ
 見学先: サンデンフォレスト(サンデン(株)赤城事業所)
 日時: 2003年4月18日(金)14:00 ~ 16:30
 定員: 40名(先着順・会員優先)
 参加費: 会員2,500円 準会員1,500円
 非会員3,500円 学生一般2,000円
 車代として別途1,000円
 申込方法: 会員種類・氏名・勤務先・連絡先住所・TEL・FAXをご記入の上、本部事務局宛にFAXまたはE-mailにてお申込みください。

第288回事業所見学会(中部)
 テーマ: 人工島における国際空港ビル建設の効率的な施工管理の実施
 見学先: 中部国際空港旅客ターミナルビル新築工事・共同企業体
 日時: 2003年4月25日(金)13:30 ~ 15:40
 定員: 40名(会員優先)
 参加費: 会員2,500円 準会員1,500円
 非会員4,000円 学生一般2,000円
 申込方法: 会員番号・氏名・勤務先・所

属・TEL・連絡先・住所を明記の上、中部支部事務局宛にお申込みください。
 申込締切: 4月11日(金) 到着分

第71回研究発表会(本部)発表募集
 日時: 2003年5月31日(土)
 会場: 日本科学技術連盟・本部
 (1)申込期限

発表申込締切 3月28日(金)	アブストラクト: 200字以内 テーマ、発表者、連絡先記入発表申込書が着き次第要旨「原稿の書き方」等を送付します。
予稿原稿締切 5月6日(火) 必着	(22字×40行×2段)×4枚以内
参加申込締切 5月21日(水)	3月下旬に研究発表会ご案内・参加申込書を送付します。

(2)研究発表・事例発表の申込方法
 同封の発表申込要領をご覧ください。
 (3)参加申込
 3月送付の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申込みください。ホームページからもお申込みいただけます。

行事申込先
 本部: 166-0003 杉並区高円寺南1-2-1
 (財)日本科学技術連盟
 東高円寺ビル内
 (社)日本品質管理学会
 TEL 03-5378-1506
 FAX 03-5378-1507
 E-mail: apply@jsqc.org
 中部支部: 460-0008 名古屋市中区栄2-6-1
 白川ビル別館
 (財)日本規格協会 名古屋支部内
 (社)日本品質管理学会 中部支部
 TEL 052-221-8318
 FAX 052-203-4806
 E-mail: nagoya51@jsa.or.jp
 関西支部: 530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-25
 (財)日本科学技術連盟大阪事務所内
 (社)日本品質管理学会 関西支部
 TEL 06-6341-4627
 FAX 06-6341-4615
 E-mail: a-kobayashi@juse.or.jp